

表12 「歴史の道」調査候補一覧表

番号	街道名(仮称)	概算距離km	区 間	参 考
○	1 奥州道中	120	白坂-白河-郡山-福島-貝田(仙台方面へ)	奥州諸大名参勤交代の道
○	2 浜 街道	120	酒井-窪田-平-小高-相馬-新地(仙台方面へ)	浜通りの主要街道
○	3 米沢街道	30	八丁目(松川)-平田-大森-庭坂-(米沢へ)	羽州街道の脇街道
○	4 羽州街道	10	桑折-小坂-小坂峠(山形・秋田方面へ)	出羽国の大名道
○	5 水戸街道	61	矢吹-棚倉-東館(矢祭)(水戸・常陸太田方面へ)	古代文化伝播の道
○	6 中村街道	60	福島-掛田-東玉野-中村(相馬)	相馬藩と中通りを結ぶ道
○	7 相馬街道	66	本宮-針道-比曾-飯種-草野-中村	中通りへの塩の道
○	8 警戒街道	70	本宮山>三春-船引-小野-平	いわき地方と中通り物資交流の道
○	9 御斎所街道	(67/37)	(須賀川) 竹貫(古殿)-皿貝-常磐湯本	石川・いわき地方を結ぶ主要道
○	10 白河街道	80	若松-背炎峠-福良-勢至堂-滝沢峠	会津藩主参勤交代路
○	11 南山通り	64	若松-福永(本郷)-大内-田島-糸沢(今市方面へ)	参勤交代と仲付駕者の道
○	12 二本松街道	53	若松-大寺-猪苗代-揚枝峠-滝沢峠-本宮-二本松	会津への物資流入路
○	13 福島街道	77	若松-猪苗代-酸川野-土湯峠-福島	近世に開発された道
○	14 米沢街道	47	若松-塩川-熊倉-大塚-松原-松原峠(米沢へ)	伊達政宗会津侵入の道
○	15 越後街道	43	若松-坂下-塔寺-鐘撞堂峠-野沢(津川・新潟方面へ)	越後からの塩の道
○	16 沼田街道	184	若松-坂下-柳津-只見-古町-松枝岐-尾瀬(沼田へ)	会津半周の主要街道
○	17 八十里越	20	叶津(只見)-八十里峠-鞍掛峠(新潟県下田村方面へ)	奥会津への文化流入路
○	18 六十里越	25	只見-田子倉(大白川・小出方面へ)	越後へ青芋輸出の道
○	19 梁川丸森道	(30/15)	(福島) 梁川-舟舟生-果境	仙台領と結ぶ紙漉きの道
○	20 中村丸森道	10	中村-旗巻峠(丸森方面へ)	伊達氏、相馬氏合戦の道

とおり開催した。

○日時 昭和57年7月28～29日

○会場 いわき市文化センター及びいわき市労働福祉会館

○講義及び講師 「東北地方出土の申世陶磁器」東北歴史資料館考古研究科長 藤沼 邦彦

「博物館・歴史民俗資料館の資料展示のあり方と方法について」慶応大学講師 国友 俊太郎

「仏像の見方について」形と時代判定の仕方―

「緊急発掘調査における市町村の役割と問題点」事例発表 山都町教育委員会主事 小沢 弘道

「市町村文化財保護審議会の具体的活動と問題点」事例発表 田島町教育委員会社会教育主事 佐藤 高慶

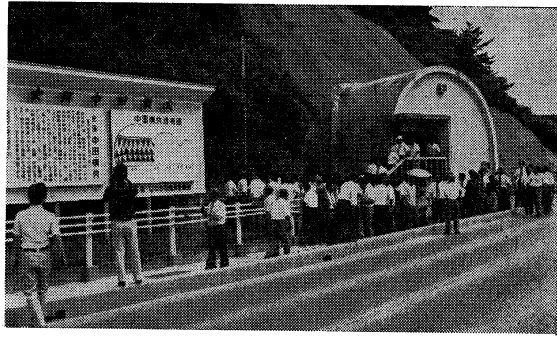
東京国立博物館東洋課長 佐藤 昭夫

○現地研修 史跡白水阿弥陀堂など

十 第三回福島県民謡まつり

近年の急速な社会情勢の変化は、生活様式や風俗慣習など、大きな変化をもたらしている。それだけに生活や仕事に密着して伝承されてきた民謡も変化をとげ、古来の姿は日ごとに失いつつある。

これらの民謡を発掘して、一般に公開し、文化財としての価値の認識を深めるとともに、記録保存を図り、将来に伝えることを字的とし開催しているが、本年度は八月二十五日会津若松市民会館で開催された。今回は新しい試みとして、会津の民謡「会津磐梯山」ほか一曲を古調と現調で歌っていただ



現地研修・史跡中田横穴



第3回県民謡まつり(田島盆踊)

- き、聴衆に深い感銘を与え、大きな成果をあげることができた。公開された演目は、次のとおりである。
- | | | |
|----|------|---------|
| 13 | 会津松坂 | 喜多方市ほか |
| 12 | 下郷松坂 | 下郷町 |
| 11 | 長 沼 | 二本松市 |
| 10 | 長持唄 | 新鶴村 |
| 9 | 田島盆踊 | 田島町 |
| 8 | 根宿盆踊 | 矢吹町 |
| 7 | 土搦ぎ唄 | 会津若松市ほか |
| 6 | とこせ踊 | いわき市 |
| 5 | 酒屋唄 | 会津若松市 |
| 4 | 田植唄 | 白河市 |
| 3 | 田植唄 | 西会津町 |
| 2 | 糸取り唄 | 天栄村 |
| 1 | 福島盆踊 | 福島市 |